

最新刊 12月10日発売！

暮しの手帖別冊

わが家の家事シェア

家事を共に担い、支え合って暮らす
9つを家庭を訪ね、その知恵と
コミュニケーションの工夫を聞きました。
人と共に生きる、おもしろさと難しさ。
仕事の責任が大きくなる時、
暮らしをどう整えるか。
退職したり病気を患ったり、
人生の転機を迎えた時の関係の変化。
さまざまな事情に向き合う
幅広い世代の方々に取材しています。
人と暮らすって、どういうこと？
そんな問い合わせを探す一冊です。



●特別寄稿

植本一子／松田青子／白岩玄／吉本ばなな／
岡田美智男／村井理子／最果タヒ／細川貂々／
森田真生／みうらじゅん／安藤和津

最新刊

花森安治選集 第3巻 ばくらは二度とだまされない

花森安治 著

暮しの手帖の創刊編集長、
花森安治（1911～1978）の著作集。

1960年から1978年に、
執筆した作品を収録しています。
オリンピックや万博に沸く世相の裏で、
政治、経済、公害などの問題が噴出し、
ジャーナリストである花森の筆は
いつそう鋭くなりました。
現代に通じるメッセージです。



花森安治選集 全3巻、好評発売中！
第1巻 美しく着ることは、美しく暮すこと
第2巻 ある日本人の暮し
本体価格 各3600円（税別）

写真 中村彰宏

暮しの手帖 年間定期購読の ご案内

自家に毎号『暮しの手帖』を届けてほしい、
知人への贈りものにしたいなどとお思い
の方には、年間定期購読がおすすめです。
郵便局備えつけの振替用紙に、口座記号
番号（00190745321）、
加入者名（株式会社暮しの手帖社）、
ご住所とお名前、電話番号、購読開始の
号と、金額欄に所定の購読料をご記入の上、
代金をお振込みください。プレゼントの
場合は、通信欄に贈り先の方のご住所と
お名前をご記入ください。

- 購読料1年分（6冊）
国内宛・荷造り送料込 6888円
- 定期購読に関するお問い合わせは、
暮しの手帖社 営業部



*特典は、変更になることがあります。
ご了承ください。
*特典のふきんは、小社に直接お申し込みいただいたご本人にお送りいたします。

このふきんは、暮しの手帖社と日東紡の
共同研究から生まれました。
「日東紡のふきん」として1960年に
売り出されて以来、現在まで多くの方々
に愛され続けています。

花森安治が描いたランプを刺繍した、
この特典だけのオリジナルふきんです。
このふきんは、暮しの手帖社と日東紡の
共同研究から生まれました。

暮しの手帖社



暮しの手帖

Vol.24 winter 2020-21

暮しの手帖

暮しの手帖



贈り物には、あなたのお名前の
プレゼントカードを添えて、先様にお送りいたします。

暮しの手帖 9号 11月25日発売
特別定価 1100円（税込）

暮しの手帖社

東京都千代田区内神田 1-13-1-3F
TEL.03-5259-6001 FAX.03-5259-6004
<https://www.kurashi-no-techo.co.jp>

身体をいたわり、心にしみいる、
「冬の贈り物」のような一冊を。

そんな思いを込めて編んだ、
特大号をお届けします。

文・北川史織（『暮しの手帖』編集長）



「蒸籠を使ってみませんか？」

この一年、おそらく多くのみなさんが、不安や孤独、胸苦しさを感じながら、息を詰めるようにして過ごしてきたのではないでしょうか。最新号は、ちきさんが絵本に寄せた想いのように、温もりや優しさ、いたわりを込めた記事をそろえました。一部をご紹介します。

ぼくが雪の降らない遠い土地で暮らすなか、雪虫を見た瞬間、懐かしさと安心感のようなものを見えたのかもしれません。みつばちと自分を重ねて、雪のなかで喜びを感じたかったのでしょうか。でも、ちよつと悲しいお話でもあるので、その頃、さびしかったんだしようかね……。みなさんは、温もりや優しさを少しでも感じていただけたら嬉しいです

このところ、気温がぐっと下がったせいで、街のあちこちで燃えるような紅葉を目にします。土地によっては、もう初雪を見たという方もいらっしゃるかもしれませんね。

最新号の表紙は、降りしきる雪の中を踊るように駆け回る、3頭の鹿が描かれています。作者は、絵本作家のちきちきさん。2012年にデビューしてから20冊以上の絵本を手がけ、19年の秋には、武藏野市立吉祥寺美術館で「きくちちき絵本展 しろとくろ」が催されました。

私も伺いましたが、のびやかな線で紙いっぱいに描かれた動物たちの絵を、子ども大人も魅入られたように見つめていました。一人で静かに、目を輝かせて観ている女性が多いのも印象的でした。会場には、ちきさんがご自身で製本された、いわゆる「手製本」も何冊か展示されていました。やわらかそうな紙に描かれていただけなら嬉しいです

このところ、気温がぐっと下がったせいで、街のあちこちで燃えるような紅葉を目にします。土地によっては、もう初雪を見たという方もいらっしゃるかもしれませんね。

最新号の表紙は、降りしきる雪の中を

踊るように駆け回る、3頭の鹿が描かれています。作者は、絵本作家のちきち

きさん。2012年にデビューしてから

20冊以上の絵本を手がけ、19年の秋には、

武藏野市立吉祥寺美術館で「きくちち

き絵本展 しろとくろ」が催されました。

私も伺いましたが、のびやかな線で紙

いっぱいに描かれた動物たちの絵を、子

ども大人も魅入られたように見つめて

いました。一人で静かに、目を輝かせて

観ている女性が多いのも印象的でした。

会場には、ちきさんがご自身で製本さ

れた、いわゆる「手製本」も何冊か展示

されていました。やわらかそうな紙に描

かれていただけなら嬉しいです



「3皿のご馳走」

「フランスでは、前菜、主菜、デザートの3皿が献立の基本で、それは特別な日も同じ。品数より大切なのは、心ゆくまでおしゃべりして、楽しい時間を過ごすことなんですね。」

そう語る料理家の上田淳子さんに、気張らずにつくれる前菜、主菜を計7種教わりました。デザートは無理をせず、お店で求めてはいかがでしょうか。好みの料理で3皿のコースを組み立て、大切な人とお楽しみください。

○ぬくもりのアイピロー

在宅ワークで目や肩が疲れたとき、こ



「贈り物をすてきに包めたら」

ハンカチや手袋、お菓子やワインなど、贈る相手の顔を思い浮かべながら、自分の手で心を込めて包んだら、気持ちが



「ぬくもりのアイピロー」

ほぐれるのを感じます。中身は小豆とラバーベンダード。電子レンジで温めて使い、カバーを外して洗えるつくりです。手縫いでも3時間あればつくれますので、まずは自分用に、そして贈り物にもどうぞ。

○愛しめでたし、張り子の正月飾り

「愛しめでたし、張り子の正月飾り」

張り子は、新聞紙と和紙、油粘土などを材料に、誰でも手軽につくることができます。ご紹介するのは、干支の丑、富士山、招き猫、だるまといった縁起物の張り子。大掃除を終えたら、しめ縄に飾りつけて、来る年に福を招きましょう。

変わらぬ日常がありがたく、愛おしい。そうしみじみと感じる一年でした。私たちが編んだ「冬の贈り物」の一冊をめくりながら、心からつるいでお過ごしいただけたらうれしいです。みんなに、穏やかな年末年始が訪れますように。

○蒸籠を使ってみませんか？

身体に優しい蒸し料理のご提案です。

朝夕と蒸籠を活用している料理家のワタナベマキさんに、手間なく失敗なく、2品を同時に熱々で仕上げる「献立術」を教わりました。満足感のある主菜のほか、スープなどの副菜、常備菜まで。台所を汚さず、洗い物も少なくて済む蒸籠は、忙しい人にこそおすすめの道具です。選び方や使い方のコツも解説しています。

○3皿のご馳走

「フランスでは、前菜、主菜、デザートの3皿が献立の基本で、それは特別な日も同じ。品数より大切なのは、心ゆくまでおしゃべりして、楽しい時間を過ごすことなんですね。」

そう語る料理家の上田淳子さんは、

無理をせず、お店で求めてはいかがで

しょう。好みの料理で3皿のコースを

組み立て、大切な人とお楽しみください。

○ぬくもりのアイピロー

在宅ワークで目や肩が疲れたとき、こ

のアイピローで温めると、心までほっこり

かかる、優しい色合いの小さな絵本。手に取ることはできませんでしたが、めくつてみたいなあと見つめました。

それから1ヵ月後、5号の記事「ぼくらが家について考えたこと」の取材で、ちきさんを訪ねました。アトリエはお住まいの2階にあり、机の前の大きな窓には、里山の風景がゆつたりと広がっています。絵を描くとき、ちきさんは机に紙を置き、立って筆を走らせるそうです。

取材をひと通り終えた頃、一緒にいた編集部の上野さんが、「ちきさん、よろしかったら、あの手製本を見せていただけませんか?」と頼みました。彼女もやっぱり、あの絵本が気になっていたんですね。4冊ほど拝見したなかで、私たちがたいへん心惹かれたのが、『しろいみつばち』という作品でした。

物語の舞台は、さまざまなお虫や花々が息づく原っぱ。主人公の「みつばち」と「の

ばな」は仲良しですが、あるとき、のばなはみつばちにこう言うのです。「みつばちはいいわね、わたしはどこへもいけない」。そして、自分の真っ赤な花びらに飽きてしまった、純白になりたいと話します。みつばちは、その願いをかなえて、思いをめぐらせる。すると、季節はずれの雪が降ってきて……。

9号は、この『しろいみつばち』を綴じ込みの特別付録とした特大号です。と言つても、手製本をそつくり掲載したのではなく、ちきさんが物語を練り直しながら、優しく語りなあと見つめました。

制作の打ち合わせを始めたのは、3月初旬。私たちはすでにマスク姿でした。9号は、この『しろいみつばち』を綴じ込みの特別付録とした特大号です。と言つても、手製本をそつくり掲載したのではなく、ちきさんが物語を練り直しながら、優しく語りなあと見つめました。

ばな」は仲良しですが、あるとき、のばなはみつばちにこう言うのです。「みつばちはいいわね、わたしはどこへもいけない」。そして、自分の真っ赤な花びらに飽きてしまった、純白になりたいと話します。みつばちは、その願いをかなえて、思いをめぐらせる。すると、季節はずれの雪が降ってきて……。

9号は、この『しろいみつばち』を綴じ込みの特別付録とした特大号です。と言つても、手製本をそつくり掲載したのではなく、ちきさんが物語を練り直しながら、優しく語りなあと見つめました。

ばな」は仲良しですが、あるとき、のば

なはみつばちにこう言うのです。「みつ

ばちはいいわね、わたしはどこへも

いけない」。そして、自分の真っ赤な花

びらに飽きてしまった、純白になりたい

と話します。みつばちは、その願いをか

なえて、思いをめぐらせる。すると、季節はずれの雪が降ってきて……。

9号は、この『しろいみつばち』を綴

じ込みの特別付録とした特大号です。と

言つても、手製本をそつくり掲載したの

ではなく、ちきさんが物語を練り直し、

まつたく違ったタッチの絵で描き下ろし

てくださいました。

制作の打ち合わせを始めたのは、3月

初旬。私たちはすでにマスク姿でした。

9号は、この『しろいみつばち』を綴